

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和7年度第1回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和7年10月14日（火） 午後1時～3時15分
開催場所	高松市役所3階 32会議室
議 題	(1) 審議事項 ア 令和6年度高松市生涯学習事業の推進状況について イ 部活動の地域展開について (2) 報告事項 令和7年度第1回高松市総合教育会議の結果について (3) その他
公開の区分	☒ 公開 ☐ 一部公開 ☐ 非公開
上記理由	—
出席委員	大村委員、岡委員、笠井委員、松下委員、有澤委員、藤本委員、山神委員、森岡委員、渡部委員 （欠席委員0名）
傍聴者	1名（定員5名）
報道記者	0名

会議の経過及び結果

(1) 審議事項

- ア 令和6年度高松市生涯学習事業の推進状況について
 事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

「子どもの安全確保事業」の、主な取組と今後の課題欄の2段落目の記載について、「地域に対して積極的に連携を呼びかけたものの、目標達成には至らなかった」とあるのに対して、「今後も引き続き、地域に対して、積極的に連携を呼びかける」とあり、方法に改善が無い状態で、今後の課題を解決できるのか疑問に思う。

「市民参画促進事業」について、学習の成果を発表する機会を提供する事業とのことだが、生涯学習コーディネーター養成講座についても、この事業に含まれているということか。

「サンクリスタル高松リニューアル事業」及び「図書館運営事業」における図書館情報システムの構築について、図書館の分室であるコミュニティセンターでは、職員の方が手書きの貸出簿等を使用して貸出し業務を行っており、その手間が貸出し冊数や利用者数に影響を与えていると考えられるが、こうした図書館分室における図書館情報システムの構築は、どの程度想定されているのか。

主観的評価について、有効性や効率性などを評価する上でのポイントは、どのように示されているのか。

(事務局)

「子どもの安全確保事業」について、健全育成団体の高齢化も進んでいる中で、アプリやICTの活用の推進を行うことが難しくなっているため、PTAの保護者等、若い世代の方にアプローチを行い、活動に参加してもらえよう取り組んでいる。

(事務局)

「市民参画促進事業」について、市民・団体の方が自発的に行っている学習成果を発表する場を提供する「学習成果発表の場事業」と、生涯学習を推進・援助する人材を養成する「生涯

会議の経過及び結果

学習コーディネーター養成講座」の2つが「市民参画促進事業」における大きな取組となっている。成果指標としては、学習成果発表の場事業における講座回数を指標としており、生涯学習コーディネーター養成講座は、学習成果発表の場事業に直接的に繋がるものではないが、今後、生涯学習コーディネーター養成講座の参加者から学習成果発表の場事業への応募に繋がってほしいと考えている。

(事務局)

「サンクリスタル高松リニューアル事業」及び「図書館運営事業」における図書館情報システムの構築について、今のところ各分室を図書館情報ネットワークに繋ぐ計画はないが、2年に1回、図書の入替えを行っており、できるだけ新しい資料等を地域の方に利用してもらえよう取り組んでいる。今後も読み聞かせ等のイベントを行い、地域と密接な関係を保ちながら分室をより活性化できるよう取り組んでいきたいと考えている。

(事務局)

主観的評価について、妥当性・有効性・効率性のそれぞれに2つの項目があり、その項目ごとに5・3・1・0点の4段階で回答するようになっており、それぞれの項目で3点をつけると合計6点となって、やや低い結果になってしまうという部分もあるが、満点の10点になっていない事業については、何らかの改善の余地があると考えることができる。生涯学習事業の中には、数字に表れないような効果が含まれているものもあり、横並びで評価することが難しい事業もあると思うが、事務事業評価の担当課に今後の見直しを期待しながら、事業の成果については、それぞれの担当課で評価していきたい。

(委員)

事業を行った、作成した、開催した等がゴールではなく、その先の何がどう変化したかという部分を意識していくことが重要だと思う。数で測れない成果に目を向けた視点を持つことが大事。

また、たくさんの取組がある中で、複数の取組を一緒に行うことも考えていくことが大事だと思う。例えば、子どもに対して行っていることが、高齢者にとっても良い事と重なる部分も多いので、事業費を確保し、市の中で横串を通して行っていくことが、取組自体の広がりにつながっていくのではないかなと思う。

(委員)

今回の評価が、8年間の内の初年度ということなので、次年度に向けてどのように取り組むのかという部分が大事だと思う。

「不登校対策事業」について、多様な学びの場の提供が課題とあるが、具体的にどのように対応していくのか。

「地域学校協働活動推進事業」について、令和9年度から本格実施とあるが、具体的にどのように行っていくのか。

(事務局)

「不登校対策事業」について、今年の9月から虹の部屋に、低学年の子どもで母子分離不安や長い間学校に行っていないために、学校の学習についていけない子どもに個別に学習支援を行う「なないろ」という部屋と、中学年・高学年の集団に入りにくい子どもの居場所支援を行う「しずく」という教室を設置している。

また、学校に來られたり來られなかったりする子どもへの対応として、学校内のサポートルームのようなものについても、現在検討を進めている。

(事務局)

「地域学校協働活動推進事業」について、現在モデル校が8校あり、令和9年度から市内で一斉に展開するということは、なかなか難しいと考えている。毎年、生涯学習課の担当者が全ての学校を訪問し、学校・地域の相談に乗りながら、後押しする形で、少しずつ実施可能な学校・地域を増やしていきたいと考えている。

(委員)

客観的評価の指標について、アウトカム指標を設定することが望ましいと思うが、実際なかなかそういった指標を設定することが難しく、アウトプット指標になっている部分もあるかと思うが、8年間評価をしていく中で、指標を変更することはできないのか。

主観的評価について、誰が点数を付けているのか。

図書館について、現在、全国的に本屋の消滅という話も出ているが、図書館が活性化することが関係するのではないかとも思う。本屋と図書館とのさびわけについて、どの様に考えているのか。

(事務局)

客観的評価の指標の見直しについて、8年間での変化を見ていく必要があるので、指標を変更することは基本的にないが、中間見直しを行い、社会情勢的に不適當となっている目標値等については、修正することはある。

主観的評価については、事業を所管している担当課が評価を行い、全体のとりまとめを行政改革推進室や政策課が行っている。

(事務局)

図書館と本屋のさびわけについて、全国で本屋が無い自治体もある中で、高松市はたくさん本屋がある自治体となっている。本屋は、売れる本を優先的に置いていると思うが、図書館は、それだけではなく、読んで欲しい本や、資料として保存していく必要がある本も収集している。そういった部分が本屋と図書館との違いだと考えている。

(委員)

「不登校対策事業」について、虹の部屋で冊子を作られているとのことだが、冊子の利用方法について教えてほしい。学校でもこの冊子について研修が行われているのか。

(事務局)

冊子は、虹の部屋で作成しているものではなく、高松市全体の不登校を減らすためのQ&Aという形で作成している。この冊子は、高松市内の様々な教職員向けの研修で使用しており、校内でも不登校対策として、全職員に配布し、共通理解を行った上で対応している。

(委員)

子どもたちの基礎学力や社会に出た時、大人になった時の自立ができるように、「文化交流推進事業」や「子ども教育推進事業」などをされているが、今後も是非継続していただきたい。

(1) 審議事項

イ 部活動の地域展開について

事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

子ども達も日々忙しい中で、いろいろな経験ができる機会の提供に繋がればいいと思った。

(2) 報告事項

令和7年度第1回高松市総合教育会議の結果について

事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

式典に来ていない人について、県外にいるためスケジュールの都合上来られないのか等、来ていない理由についてのデータはあるのか。

(事務局)

来ていない方にコンタクトを取ることができないため、理由についてのデータは無いが、当日来られない方向けにオンライン配信を行っており、式典対象者全員に送付している案内状で周知している。

(委員)

おそらくオンライン配信は見ないと思う。通信制の高校に通っている子どもから、「文化祭等の時期は、すごく辛い。そういった思い出づくりの場所が私たちには無いんだ。」という話を聞いたことがある。こういった子どもたちもいるということを少し心にとめていただきたい。

(議長)

何か具体的に提案はあるか。

(委員)

文化祭の際は、別の方法で、若者たちが企画するイベントを開催したことがある。関東の若者支援団体は、オンライン上でコミュニティを作っており、そこでお祝いの機会を作っているということも聞いたことがある。高松にも若者支援の団体がいろいろな活動をされているので、そういった団体に意見を聞いてもいいと思う。

(3) 「その他」について事務局及び委員に意見等がないか確認する。

【委員からの取組紹介】

・「NPO法人子育てネットひまわり」、「たかまつ子ども食堂ネットワーク」について紹介

【事務局からの報告事項】

・「早寝早起き朝ごはん運動普及・啓発事業」、「地域学校協働活動」について説明

その他意見等はなかったため、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。